

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

若者たちが、この業界で輝くために。
巣立ちの時にそなえ、本物の技を与えてあげたい。

家具製作の現場もまた、高齢化が進んでいます。「若い人たちにも、家具づくりの醍醐味を知ってもらいたい」。その思いから、当社では若者を積極的に採用しています。なかには、わざわざ東京から移住してまで、うちに来てくれる子もいる。そういった勢いのある若者たちに、業界の未来を変えてほしい。そのためにも、カンナやノミといった本物の職人技をマスターさせたかった。今や家具製作のほとんどが機械化していて、手作業の部分は全体の10%ちょっと。だからこそ、わずかな手仕事がクオリティーに差を生む。本当なら私が教えられればいいのですが、社長業もあるし、なかなか現場でべったりと指導するのは難しい…。育成方法に悩んでいた時に、タイミングよく声をかけてくれたのが、元々仲のいい建具屋さんの社長であったマイスターの森本さん。「マイスター制度というのを使って、若手を鍛えていかないか？」その一言から、このプロジェクトが始まりました。



有限会社 藤田木工所
代表取締役 藤田淳司さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：20回 受講者数：6名
実施場所：有限会社 藤田木工所 作業場



■ プログラム内容

1回目	カンナの台直し1	11回目	墨付けの仕方2
2回目	カンナの台直し2	12回目	墨付けの仕方3
3回目	カンナの台直し3	13回目	ノミでの穴加工1
4回目	カンナの研ぎ1	14回目	ノミでの穴加工2
5回目	カンナの研ぎ2	15回目	ノミでの穴加工3
6回目	カンナの研ぎ3	16回目	ノミでの穴加工4
7回目	ノミの研ぎ1	17回目	ノミでのほぞ加工1
8回目	ノミの研ぎ2	18回目	ノミでのほぞ加工2
9回目	ノミの研ぎ3	19回目	ノミでのほぞ加工3
10回目	墨付けの仕方1	20回目	ノミでのほぞ加工4

💡 教育プログラムの解説

指導にあたる森本さんは、家具・建具製作のマイスター。本業は手作業の多い建具職人で、いわば手加工のプロフェッショナルです。その森本マイスターが、若手社員に対し、一つひとつの技能を基礎から指導します。プログラムの内容は、技能検定「建具製作」2級の内容をベースに構築。道具の基本的な扱い方や、手加工の基礎を身につけます。実技指導は基本的に水曜日に開催し、業務を終えた夕方から指導を行うため、従業員も無理なく参加可能。若手同士が技量を競いあう場にもなり、現場がさらに活性化されています。

世界にただひとつの家具をつくる。
こだわりを叶えるのは、職人の手仕事。

「お客様の想いを、世界にひとつだけの家具へ込める」。情熱を秘めた若者たちが、家具づくりに没頭する有限会社藤田木工所。今や製作工程の9割を機械に頼るなか、残りの手加工が仕上がりを左右する。その細部までこだわるために、社長とマイスターがタッグを組んで、次の世代へ本物の技を託します。

■ ものづくりマイスター派遣先企業

■ 有限会社 藤田木工所

所在地	香川県高松市池田町1254-5	従業員数	10名
事業内容	店舗や住宅の内装仕上げ工事一式 ／オリジナルの別注家具製造	設立年	平成7年
		資本金	300万円



道具の扱い方から学び、職人技を知る。

CASE_08 家具製作 技能をマスターに学ぶ

座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_左から3番目）

森本 隆さん

昭和40年生まれ
平成11年度 1級技能士「建具製作(木製建具手加工作業)」取得
平成12年度 1級技能士「家具製作(家具手加工作業)」取得
平成25年度 厚生労働省ものづくりマスター「家具製作」「建具製作」認定



この道、35年超の大ベテラン。現在は建具製作を行う会社の社長を務める。「業界全体のことを考え、次の世代に職人技を残したい」との思いから、マスターとして若手の育成に励む。

道具を、“自分の道具”にする。
それが職人への第一歩。

森本さん ここ10年くらいの間に、「最近の若い子たちは、道具の使い方を知らないんだな」と思い知らされました。今じゃ機械加工がメインで、手作業はほとんどないから当然。そんな業界の現状に哀しくなり、私から仲のいい藤田社長に声をかけたんです。「ぜひ、おたくの若い子に、手仕事を教えさせてくれないか」と。実際、どうかな？現場じゃカンナやノミなんて使わないでしょ？

市川さん あまり使わなかったですね。でも、職人さんが作るいい道具なので、ある程度は使える気になっていました…お恥ずかしながら。

森本さん 僕らの道具は、買ってすぐに使えるものじゃない。自分で調節して使ってみて、それでまた調節して、自分の道具に仕上げていく。その調節ができないと、まともにカンナを引くことすらできない。なので、まずは道具の仕込み方から教えました。

桑江さん 習った方法で、丁寧に仕込んだカンナを引くと、もう音がぜんぜん違うんですよ。「チューンッ」って！手応えの軽さも、削りカスの薄さも、まったく違う。びっくりしました。

市川さん 自分がやっていたのは、「カンナで削ってたんじゃないかって、木材をちぎってたんだ…」それくらいの差を感じましたね。



受講した若手技能者（写真_1番右）

市川 隆さん

平成27年入社

ものづくり職人に憧れて、藤田木工所へ入社。ひたむきに技の習得を続けている努力家。平成29年に「家具製作(家具手加工作業)2級」を取得。次は、「建具製作(木製建具手加工作業)2級」に挑む。

受講した若手技能者（写真_1番左）

桑江 龍哉さん

平成26年入社

前職は、家具販売スタッフ。「家具を自分の手でつくり、いつかは自社ブランドを立ち上げたい」と、思いきって東京から移住。大きな夢に向けて、日々奮闘中。



使える技が増えることで、
アイデアが広がる。

森本さん 僕は35年以上この業界でやっていますが、形式をふまえて教えるのは初めて。参考書を読んだりしながら、改めて自分の技能が一般的に正しいのかどうかも、振り返りました。こんな歳だけれど、僕自身の勉強にもなっています。そして、とりあえずは1年が終わりました。ちゃんと、みんなの糧になるのかな？

桑江さん もちろんです！少しずつですが、現場で成長を感じています。つい先日も、機械が届かないような狭い部分を、フラットにしなければいけない場面があって。たかが1、2mmの話なんですけど、それが仕上がりに差を生む。これまでだったら「どうすればいいんだ…」とあたふたしていましたが、森本マスターから教えてもらった技と知識の



職人が、機械に頼ってはいられない。
自らの手で、勝負してほしい。

おかげで、「あ、ノミがあればなんとかなるぞ」と、自分で対処できました。毎回、現場によって起こることはまちまち。技を習得することで、「その時どうするか？」の選択肢が広がるのを、肌で感じています。

自らの手で、どんな
作業もこなす。
スーパーマンを目指せ！

市川さん 森本マスターに学んだことで、この仕事の奥深さというか、難しさを思い知らされました。正直、今はできないことへの悔しさのほうが大きいです。指導を受け始めてからは、自然と休みの日に自主練習をするようになりました。
森本さん 最初からのプロなんておら

ん。こんなこと言ったら、元も子もないけど、今日明日、来年再来年なんかで、職人技は身につかない。いつか受講者のみんなが、いい職人になってくれたらいい。だからみんなも、焦らず長い目で考えて、この仕事を続けてほしいんです。

桑江さん 僕は将来、自分で家具ブランドをつくりたい。まだまだ先は長そうですが、一つずつ技能を自分のものにしていきたいですね。

森本さん いい意気込みだ。この社長さんは、夢を応援してくれるからね。よく藤田社長とは、「なんでもできる、スーパーマンみたいな職人を育てたい」と話をしています。今の時代は、大手家具メーカーが独占状態。流行りものが、いつでもお手頃に見える。それに

勝っていくためには、やっぱり職人の手でしか生み出せない、そこでしか買えない、高品質の一点ものをつくらなきゃ。そのためにも、まずはあらゆる道具の使い方をマスターして、できないことをなくす。みんなの個性が、ものづくりに生きてくるようになるまで、面倒を見ていけたらなあと思っています。

